

住民ら初の避難訓練

乃木自治会 国尾会 県立大短大松江で



避難場所の県立大学までの経路を歩いて確認する参加者

松江府乃木地区の避難場所7丁目、県立大学短期大学部松江キャンパスで31日、

住民による避難訓練が初めて実施された。参加した住民が近くの公園からキャンパスまでの避難経路を確認した後、市の担当者から災害時の対応について説明を受けた。

同キャンパスは地震や火災時の際、乃木地区全48自治会の避難所の一つになっている。31日はこのうち同キャンパスに隣接する地区の国尾自治会(136世帯)から53人が訓練を実施。午前8時半ごろ、国尾公園に集まり、避難場所の県立大

学までの経路約300メートルを歩いて確認した。同キャンパスでは市役所防災安全課の職員が参加者に災害時の対応を説明。携帯電話やラジオ情報を得ることや、火災時はブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めることなどを強調した。非常食の試食も行われた。

国尾自治会の仙田一吉会長(69)は「国尾は高齢者も多いので災害時の準備が重要。今日学んだことを役立てたい」と語った。

会場ではこのほか、道路歩行や自転車運転時の注意点を確認するシミュレーション機器を使った体験教室、交通安全に関するクイズ、県警音楽隊による演奏

会などもあった。参加者は催しを楽しみながら交通规则を守り、マナー向上の大切さを再認識した。

家族と訪れた近くの高角小1年石山俊輝君(6)は「いろいろ体験できて面白かった。交通事故に気を付けたい」と話した。

民俗学者・八雲の研究成果講演

島根県立大短大・小泉凡教授

4日、松江



「民俗学者としての八雲と松江の魅力」を伝えたい」と来場を呼び掛ける小泉凡教授

功績や明治の松江紹介

小泉八雲のひ孫で島根県立大学短期大学の小泉凡教授(53)が4日午後4時から、松江市西川津町の島根大学で、小泉八雲についての研究成果や、明治時代の松江について講演する。入場無料。小泉教授は成城大学大学院を卒業し、小泉教授は「民俗学者としての八雲と、松江の魅力」を伝えたい」と来場を呼び掛ける。講演会は、3と6日に同大学で行われる電気学会電子・情報・システム部門大会に合わせ、電気学会主催、島根大学共催で実施。県内外の企業約50社や大学約100校の研究者ら約600人が参加する。開催地にゆかりの文化資源などを題材に、地域文化について知ってもらおう狙いで、一般聴講もできる。

小泉八雲のひ孫で島根県立大学短期大学の小泉凡教授(53)が4日午後4時から、松江市西川津町の島根大学で、小泉八雲についての研究成果や、明治時代の松江について講演する。入場無料。小泉教授は成城大学大学院を卒業し、小泉教授は「民俗学者としての八雲と、松江の魅力」を伝えたい」と来場を呼び掛ける。講演会は、3と6日に同大学で行われる電気学会電子・情報・システム部門大会に合わせ、電気学会主催、島根大学共催で実施。県内外の企業約50社や大学約100校の研究者ら約600人が参加する。開催地にゆかりの文化資源などを題材に、地域文化について知ってもらおう狙いで、一般聴講もできる。

平成 26 年 9 月 1 日 付 け ・ 山 陰 中 央 新 報

14日朗読ライブ、11月シンポ 松江で関連行事



7月5日に行われた小泉八雲の生誕地ギリシャ・レフカダ島の朗読ライブ。佐野史郎さん(左)と山本恭司さん(共同)

小泉八雲没後110年の今年、松江市をはじめ各地で八雲にかかわるイベントが開催されている。14日はギリシャ・レフカダ島で絶賛を浴びた俳優佐野史郎さんとギタリスト山本恭司さんによる朗読ライブが松江で披露される。11月

3日は八雲研究者によるシンポジウムも開かれる。朗読ライブ「望郷〜失われることのない永遠の魂の故郷〜」は松江市西川津6丁目のプラパホールで開催。八雲の作品を佐野さんが朗読し、山本さんが劇中曲をギターで

演奏する。八雲のひ孫で島根県立大学短大教授の小泉凡さんの講演もある。八雲の命日の28日は小泉八雲記念館の遺髪塔前に祭壇が設けられる。28日はプラパホールで第48回ヘルンをたたえる青少年スピーチコンテスト

があり、小中、高校生が八雲の英文作品を暗唱する。11月3日のシンポジウムは松江市殿町の島根県民会館で開催。八雲研究の第一人者として知られる平川祐弘東京大名誉教授が講演するほか、山陰文芸協会の池野誠会長と対談する。

平成 26 年 9 月 1 日 付 け ・ 山 陰 中 央 新 報

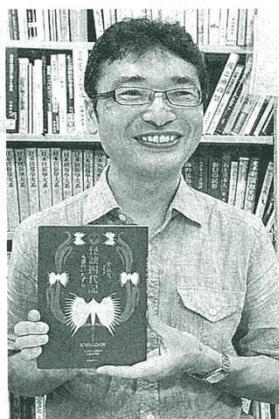
ひ孫つづる八雲の奇談

島根県立大教授 小泉凡さん新刊

出版話題

明治の文豪・小泉八雲(ラファディオ・ハーン、1850〜1904年)のひ孫で島根県立大短大教授の小泉凡さん(53)が、松江に在住する小泉家で代々語り継がれる怪談やエピソードをつづった本「怪談四代記 八雲のいたずら」を出版した。八雲が日本に来る前に聞いていた物語から没後、小泉家で起きた奇談まで、親族ならではの考察を交えつつ紹介している。八雲の没後110年を機に八雲と怪談を再考したい思いから執筆を決意。昨年来、松江で怪談作家の木原浩勝さんと古典、現代の怪談を語り合う「松江怪談談話」を通して、八雲にまつわる奇談が小泉家に多く伝わることに気付いた点も後押しとなった。数あるエピソードから縁を強く感じた話を選んだ。八雲が抱く母への思いや松江で過ごした日々を八雲の作品を引

用しながら考察。凡さんが八雲の足跡をたどって訪れたギリシャ、アイルランドで偶然出会った八雲ゆかりの人々との2006年に凡さんが上京した際、父・時さんから聞いた話も織り込んだ。時さんと膝をつき合わせ八雲について話したのはその時が初めてで、祖父・一雄の臨死体験や小泉家の家紋にある鷲にまつわる奇談を聞き取った。凡さんは「怪談を再話するときには八雲が妻・セツにあたる言葉と考案が大事だったように、父との対話を大事にしたかった」と語る。現代における怪談の持つ意味を凡さんは「人間中心主義になりがちな今だからこそ、異界から人間を照射する怪談は貴重」と強調し「自然の中に生かされていると知り、人間以外のものに敬意を払い、強く感じた話を選んだ。八雲が抱く母への思いや松江で過ごした日々を八雲の作品を引



新刊について話す小泉凡さん(松江)市浜乃木7丁目、島根県立大

平成 26 年 9 月 4 日 付 け ・ 山 陰 中 央 新 報

松江市役所

ギリシャでの八雲没後110年イベント

凡さん夫妻が様子報告

ギリシャでのイベントの様子を松浦正敬市長(左)に報告する小泉凡さん(中央)と祥子さん



小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)生誕地のギリシャ・レフカダ島で7月に開かれた八雲没後110年記

念イベントに参加した、八雲のひ孫の小泉凡さん(53)と妻の祥子さん(54)が3日、松江市末次町の市役所で、松浦正敬市長に現地の反響などを報告した。

小泉夫妻は、松浦市長に、八雲の「オープンマインド(開かれた精神)」をテーマにギリシャの研究者らが参加した国際シンポジウムの様子などを写真を交えて紹介した。

客席を埋めるギリシャ人を前に、松江市出身の俳優佐野史郎さんとギタリスト山本恭司さんが行った八雲

作品の朗読ライブに触れ、祥子さんは「会場でスタンディングオベーションが起こり、レフカダ市長から感謝の言葉ももらった」と伝えた。

凡さんは「ギリシャのイ

ベントは大成功だった。来年はアイルランドを舞台に、ハーンの魅力を広めた」と意気込み、松浦市長は「できるだけ支援をしたい」と話した。

島根県が有識者懇初会合

県立大短大 四年制化申し入れ受け



島根県立大短大の四年制化について参加者に説明する本田雄一学長（松江市殿町、県庁）

島根県立大（松江市殿町）が短期大学部（松江市殿町7丁目）の四年制化を検討を申し入れたことを受け、県は9日、松江市内で有識者懇談会の初会合を開

いた。資格取得の面で賛成する意見が相次いだ一方、短大進学が必要を指摘する声もあった。県は本年度末までに2回、同様の会合を開き、出た意見を参考に

に来年度の早期に四年制化するかどうかを判断する。大学案は二年制の健康栄養、保育、総合文化の3学科全てを四年制にするのが柱で、健康栄養学科を出雲キャンパス（出雲市西林木町）の現看護学部と統合し看護栄養学部として新設。保育学科を保育教育学科、総合文化学科を地域文化学科として再編し松江キャンパスに人間科学部を新設する内容。

県商工会議所連合会の古瀬誠会長を座長とする懇談会には高校長や栄養士、保育士といった3学科の専門家ら19人が出席。県立大の本田雄一学長が大学案の概要を紹介し「短大への進学率が減少している」などと背景を説明した。

出席した栄養士や保育士からは「短大では資格取得できない」看護栄養士を地元で養成できることは大きなメリットがある」「保育士に求められる専門的知識が増え、2年で学んだ内容では対応できない」などと歓迎する声が続出した。

だ。一方で、高校長からは「（生徒側は）短大に入って早く卒業、早く働くという需要は依然としてある」という指摘もあった。健康栄養学科を出雲キャンパスへ移転する案について松江市の松浦正敬市長は「分かりやすい説明がないと断り切れない」とした。

「開かれた精神」を学んで

没後110年を迎えた明治の文豪・小泉八雲（ラファディオ・ハーン、1850～1904年）。その精神を学ばせ、八雲のひ孫で島根県立大学短期大学部教授の小泉凡さん（53）が「ひ孫からみた小泉八雲と松江」と題してこのほど、松江市で講演した。「今こそ、八雲の『開かれた精神』を地域の資源として生かしていこう」と、講演の要旨を紹介する。

小泉凡・島根県立大短大教授講演

八雲はギリシャ・レフカダ島で生まれ、アイルランドで育ち、イギリス、フランスで学び、アメリカに渡った。晩年、日本を妻セツから聞いて再訪した「怪談」が有名だが、八雲の霊的な感受性をはくくんだのはアイルランドの地だ。



小泉八雲

両親と生き別れた八雲は、乳母キヤサリンから多くの怪談を聞いていた。いくつかは現在も小泉家で語り継がれている。また、多くの神話や民話が伝わる固有のケルト民俗文化が根付いていた。そこでは妖精の存在が信じられており、人々は妖精に敬意を払い、共生していた。

子どもたちは好奇心 持ち可能性に挑戦を

た。神学校への進学を余儀なくされた八雲は、次第に一神教への矛盾の思いを強くし、怪談がより人間の真理に近いものだと感じるようになった。



八雲について語る小泉凡さん
＝松江市西川津町、島根大学

八雲はギリシャ・レフカダ島で生まれ育った。一方、自身はコンプレックスの塊で、青の低さや左目の失明などに劣等感を感じていた。影のある松江の風景と、自分が持つ影。その響き合いを心地よく感じていた。

松江市では、松江中学校教頭の西田千太郎や妻セツら、信頼でき、人生に大きな影響を受けた人々との出会いもあった。

年。ニューヨークにいるころに古事記を読み、日本の中でも神話の多く残る出雲の地に興味を持って、最初の赴任地に松江を選んだ。八雲が松江を好きになった理由の一つに風景がある。宍道湖の夕暮れを気に入る。宍道湖の夕暮れを気に入る。宍道湖の夕暮れを気に入る。

平成 26 年 9 月 14 日 付け ・ 山陰中央新報

情感たっぷり 怪談朗読ライブ

松江で佐野史郎さんら

松江市のゆかりの文豪・小泉八雲（ラファディオ・ハーン）の没後110年を記念した、同市出身の俳優佐野史郎さん（59）と、ギターリスト山本恭司さん（58）による八雲作品の朗読ライブが14日、松江市西津田6丁目のプラバホールであった。佐野さんの情感あふれる表現と山本さんのギターが調和し、観客を魅了した。

「神在月まつえ文化・観光月間実行委員会」が主催。八雲が「怪談」におさめた「飴（あめ）を買う女」や「若返りの泉」を、佐野さんが抑揚を付けた独特の言い回しで朗読。山本さんが、物語に登場する乳児の泣き声をエレキギターで表現するなど、旧友の2人が息の合ったコンビで八雲の魅力を伝えた。

八雲のひ孫、小泉凡さん（53）の講演もあり、7月に八雲の生誕地、ギリシャで開かれた初公演の成功を報告した。

平成 26 年 9 月 15 日 付け ・ 山陰中央新報

文豪・小泉八雲の命日に当たる26日、県立大短期大学部の学生が八雲の怪談の世界をイメージして発案した和菓子「ほういちの耳まんぢう」の販売が、松江市内の2土産店で始まった。中浦食品（松

江市西川津町）の協力で、2カ月かけて商品化。八雲の名作「耳なし芳一」にちなんで耳を模した形のまんじゅうに松江市島根町産のいちじくジャムを入れ、松江のPRにつなげる。

八雲の名作 怪談「味わって」



耳の形をした「ほういちの耳まんぢう」を手にするゴーストみやげ研究所のメンバーたち

松江・県立大短大生考案

ほういちの耳まんぢう販売開始

考案したのは同短大部の学生でつくる団体「ゴーストみやげ研究所」の5人。全員が入募。採用され、活動資金10万円を機に来松した市外出身者を得た。

「松江の観光を盛り上げよ。商品開発では、怪談にちなんで」

物産館で、学生たちが自ら試食販売を行う。

八雲は1904年9月26日に東京で死去。今年は没後110年

だ商品が松江では少ないことに着目し、芳一がなくした耳の形をした菓子を作ることにした。小泉八雲のひ孫で短大部の小泉凡教授から助言を受けながら、箱に耳なし芳一の一場面を描いたイラストを載せた。

研究所代表の大峠百花さん（18）＝出雲市出身＝は「松江といえば怪談、というイメージを定着させられたらうれしい」と期待した。

8個入り600円（税別）を県物産観光館（松江市殿町）とシャミネ松江（同市東朝日町）で販売。27日午後1時～4時は県観光

松浦正敬松江市長（左）を表敬訪問したアン・パ
リントン次期駐日アイルランド大使（中央）



市長を表敬 アイルランド次期駐日大使 松江の印象「人々親切」

文豪・小泉八雲などを通じて松江市と縁のあるアイルランドの次期駐日大使、アン・パリントンさん(61)が29日、市役所に松浦正敬市長を表敬訪問した。

パリントンさんは28日に同市内であった、児童生徒が八雲の作品を英語で暗唱するスピーチコンテストに來賓として招かれ來松。

「皆さん、流ちょうな英語で素晴らしい」と感想を話した。

次期大使が内定していた7～8月に約2週間、松江に滞在し、日本語や日本文化について学んだ体験を振

り返り、「きれいな街で、人々が親切」と松江の印象を話した。

滞在中に知り合った、八雲のひ孫で県立大短期大学部教授の小泉凡さんが所属する八雲会などが来年、アイルランドで美術展を開く計画であることに触れ「八雲と松江市について、もっと母国で知ってもらえる契

雑誌「波利ニ」
石見小説集
定価/本体 1,238円(税別)
本のご注文は 0852-32-3420

機になればうれしい」と述べた。この後松江城などを視察し同日帰京した。

パリントンさんは今月3日に離任したジョン・ニアリー前大使の後任。年内に開かれる予定の、アイルランド大統領から託された信任状を天皇陛下に手渡す「信任状奉呈式」を経て正式に着任する。